

報告

第 24 回日本天文学会ジュニアセッション報告

松本直記（慶應義塾高校）

1. はじめに

近年では多くの学会で高校生セッションが行われるようになった。このような取り組みの先駆的な存在である日本天文学会ジュニアセッションは 24 回目の開催となった。日程は 2022 年 3 月 19 日（土）9:30～16:30 である。新型コロナウイルスまん延防止の観点から、昨年同様オンライン会議システム Zoom を利用しての開催となった。

2. 参加状況

今回も、日本全国から多くの応募があり、口頭発表 34 件、ショートプレゼン付きポスター発表 14 件、ポスター発表 6 件の発表があった。例年恒例となっているタイ国立天文学研究所（NARIT）を通じて参加するタイセッションにも 6 件の口頭発表があり、合わせて 60 件の発表があった。

参加者は、発表予稿を指定された書式で用意し、口頭発表あるなしにかかわらずポスターも用意した。口頭発表については、限られた時間で円滑にセッションを進めるため、予め発表動画（口頭発表 4 分、ショートプレゼン 1 分）を用意し、実行委員がそれを順次再生するという方法を使った。

なお、新型コロナ対策の影響で十分にクラブ活動の時間を確保できなかったため、残念ながら発表を辞退した参加校もあった。

3. 時 程

9:30 開会式・諸連絡

9:45～11:10 口頭発表

座長：小菅 京（東京工業大学附属科学技術

高校）、成田 憲保（東京大学）

「位置天文・星空環境」2 件、「彗星・流星・小惑星」3 件、「太陽・月」7 件、「惑星」3 件、「系外惑星」2 件

口頭発表では、2～3 件の発表動画を続けて再生し、その後、参加者からの質問に対し、発表者がそれに答える形式で進められた。

11:10～11:25 ショートプレゼン 6 件

11:25～13:30 ポスターセッション・昼食

ポスターセッションでは、関連のある 3～4 件ごとにブレイクアウトルームを設定し、参加者は自由に部屋を移動しながら質問や議論ができるように工夫されていた。

13:30～15:25 口頭発表

座長：宮本 英明（巣鴨中学/高校）、泉 拓磨（国立天文台/総合研究大学院大学）

「タイセッション」6 件、「恒星・銀河」7 件、「宇宙探査・開発」3 件、「装置・観測方法」5 件、「その他」2 件

15:25～16:30 ポスターセッション

なお、各参加チームの発表予稿、発表動画、ポスターは以下のリンクより閲覧できる。



<https://www.asj.or.jp/jsession/2022haru/program.html>

参加者数は、最大接続数で約 200 件、運営関係者も含めると、のべ 300 件ほどの接続があった。そのうち発表者、実行委員以外の接続数は最大で 125 件だった。発表者は学校によっては一つの端末で複数人が参加している例もあり正確にはわからない

が、総参加者数は 400 人程度であろう。

4. 準備・運営について

オンラインによる開催となり 2 回目、その間にも様々な会がオンラインで行われており、運営のノウハウは蓄積され続けている。実行委員は、オンライン会場である Zoom の他に Slack というコミュニケーションツールでやりとりし円滑な運営を図った。実行委員長の山村一誠さん（JAXA 宇宙科学研究所）は、セッションの直前、3 月 16 日の福島県沖の地震の影響か、停電に見舞われた。本番に向けて念を入れメイン PC のほか、サブ PC を準備し、インターネット回線も自宅固定回線に加えて、モバイルルーターを用意する周到さであった。

バックアップの用意という思想は人的配置にも反映されており、私の担当は「発表動画再生の予備の予備」かつ「タイマー表示の予備の予備」であった。おそらく出番はないであろうが、動画のフォルダを画面に出しておきセッションに参加していたところ、一番最後の発表で送信側のネットワークが不安定となりダウン。こちらから発表動画を送信し事なきを得た。

タイマー表示については備忘のためここに記しておきたい。「Time Keeper」という Web サイトがある



(<https://maruta/github.io/timekeeper/>)。この画面をタイムキーパー係のカメラ映像として表示させておくと経過時間を確認することができる。Zoom の Spotlight 機能を使うとタイムキーパー係のカメラ映像を全員に対し固定して表示させることができる。PC 上の任意の画面をカメラ映像として流すには、OBS Studio というソフトを用い

る。詳細は QR コードの資料を参照していただきたい。

ジュニアセッションの直前に他の Zoom 発表会で使用したところ、発表者の時間オーバーは皆無となり、予定通りに会を終えることができた。



なお、準備については山村実行委員長はじめ、実行委員、世話人の皆さんの多岐にわたる綿密な作業によって開催に至っている。このような素晴らしい会を継続して下さっていることに心から感謝の意を表したい。

5. おわりに

日本天文学会ジュニアセッションには今回も数多くの（主に）高校生が参加し、昨年からは不自由な中、オンラインで工夫を凝らし、発表の場、交流の場を守ってきた。発表内容も、観測は CCD のみならず分光器や電波観測など多岐にわたり、3D プリンタの活用やプログラミングを用いた研究など手法も多様化し、また先輩から後輩へと引き継がれることによってレベルもどんどん向上している様に感じる。第 1 回から見続けている身としては隔世の感を覚えるとともに、今後の発展が大いに楽しみである。天文教育に関わってこられた多くの方々の力によってこの隆盛があるのだと感じる。

来年度、25 回ジュニアセッションは顔を会わせての開催が可能になっていることを祈りつつ報告を終える。

松本直記